

## 健康食品と「ヘルス」なる海ガメの肉

薬学雑誌 1893 年度(明治 26 年) p 232-235

ただの水が万病に効くというホメオパシーなる代替医療が問題になっていたらしい。知ったのは、昨年 8 月、日本学術会議が会長談話で否定し、日本薬学会からも学術会議を支持するという宣言が出たからだ。荒唐無稽であることは当然だが、では、堂々と販売される健康食品というのはどうだろう？

クエン酸が含まれていれば、「(TCA サイクルの中間体にあるので)エネルギーを作って疲労回復に良い」。コラーゲンを含む食品は、消化管でただのアミノ酸になっても「ひざの関節に良い」。体にある成分を余計に摂れば健康になるなら、それぞれ水を飲めばいい。ただの水ではだめなら、深層水から作った水がある。がん細胞の増殖を抑制し、アトピーに効くという。もし販売者が効かないことを知っているなら、詐欺だと思う。

ただし、経済活動としては否定しない。販売者、消費者双方が信じていて、かつ混乱が起きなければいい。過大広告もいいたろう。商品を良く見せようとするのは当然のことだ。

世の中、サイエンスでは動いていない。

では政府の保証するトクホはどうか？ そもそも食品は生理作用がないから人類が食料に選んだのである。それに逆らって脂質や血圧を下げるのが本当たとしても、人為的に下げ続けるなら、医薬品同様どこかで無理が出る食品もあるのではないかと。まあ、大部分の人は真面目(大量、長期)に食べないだろうし、気の向いたときだけ(適量?)食べる人は、効かなくとも問題にしない。

明治 26 年、我が国医学界を挙げて保証する栄養品があった。その名を「ヘルス」という。神田区鍛冶町、森田源右衛門が海ガメの肉から作った粉末である。葉誌は、中央医事週報 44 号の解説、推薦記事を抜粋、転載したが、4 ページにわたる。ヘルスを短歌に詠んだ華族が 2 人、他にあらゆる医学博士、医学士、病院長 240 余名が賛同した。帝大教授医博、榭(精神科初代)、田口和美(解剖学初代)、三宅 秀(前・医科大学学長)、高木兼寛(元・海軍軍医総監、慈恵医大創設者)らは推薦文を寄せている。三宅、高木は明治 21 年、最初の医学博士 5 人が選ばれたときの 2 人である。健康食品もこれだけの権威が推奨したら信じてもいい。

小林 力